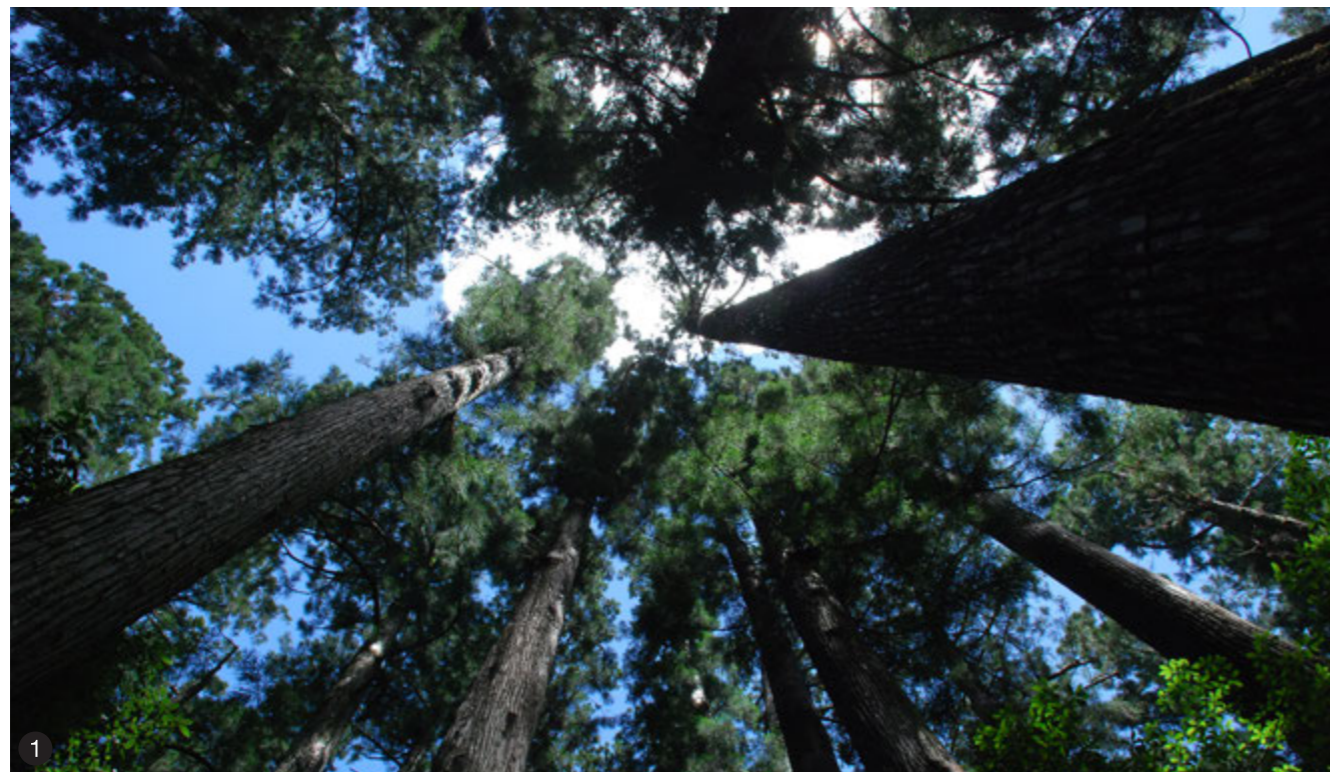


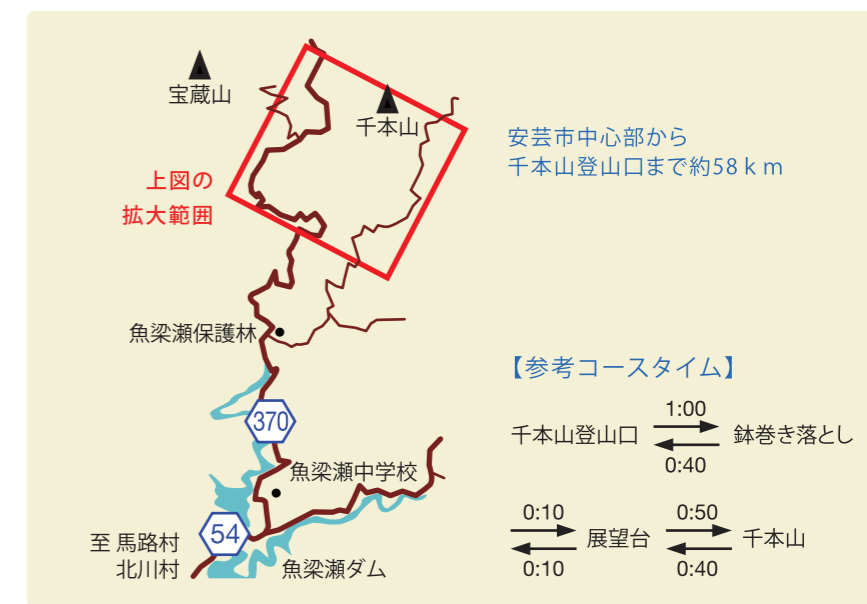
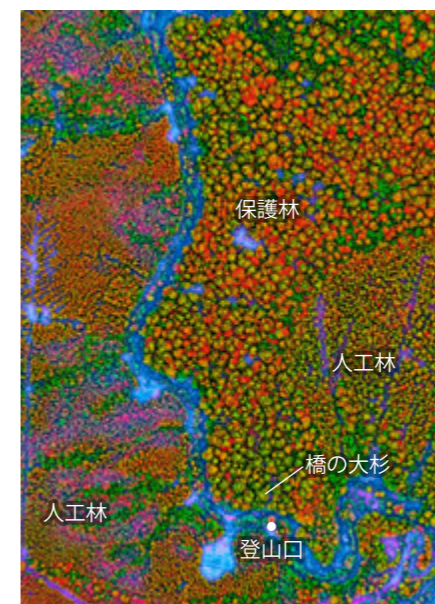
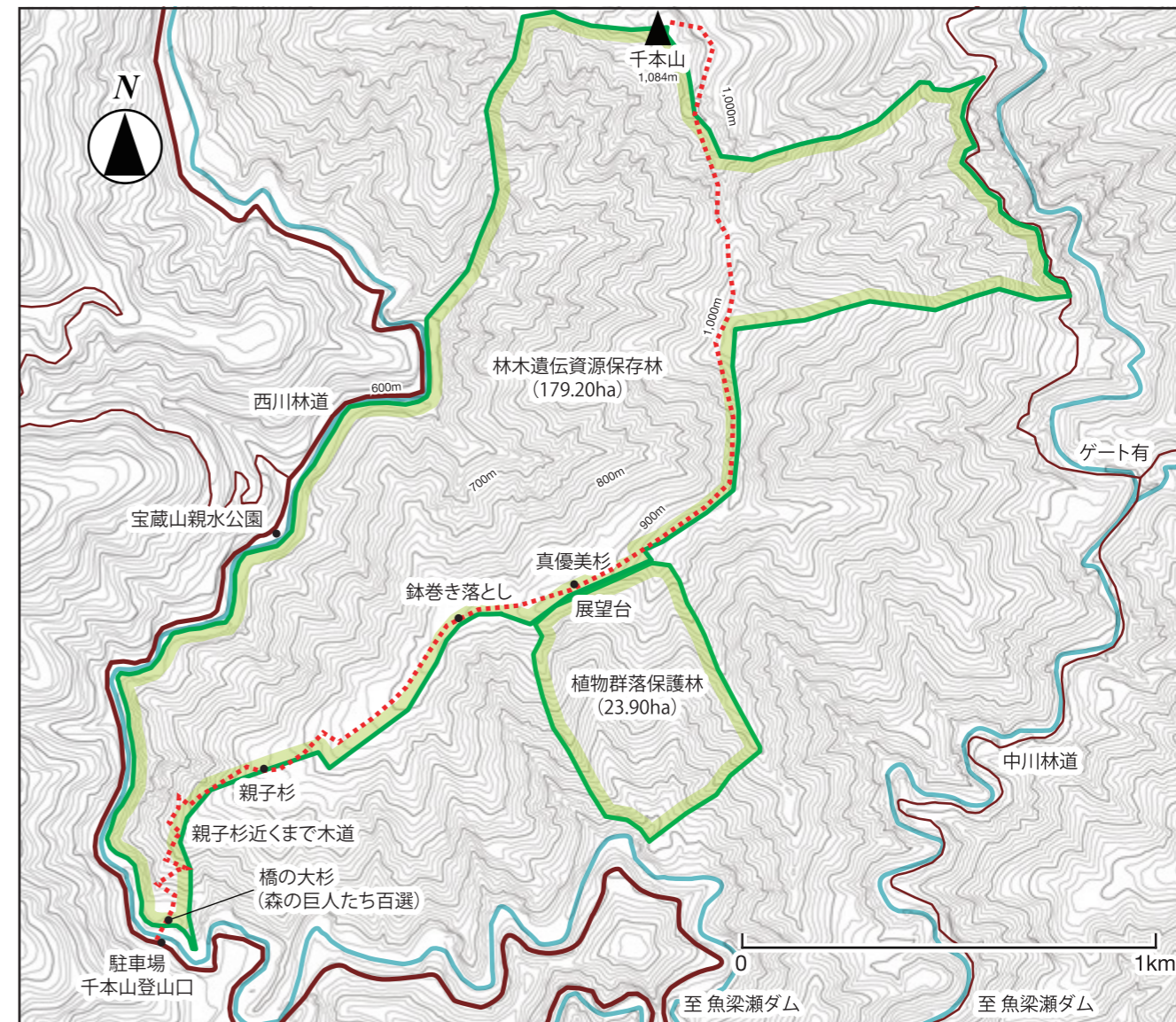
せん ほん やま 千本山ヤナセスギ 林木遺伝資源保存林 千本山植物群落保護林



千本山は、樹齢200年から300年といわれるヤナセスギが1,000本以上も林立し、スギの大径木が天に向かってまっすぐにそびえる様子は、さながら大聖堂に入ったような荘厳な雰囲気漂わせています。また植物群落保護林では、ヤナセスギの遺伝子を将来にわたり継承するため、大正時代に植林した森を見ることができます。



① 鉢巻き落とし。鉢巻きが落ちるほど上を向かないと木の頂上が見えないことからこの名前がついたといわれています。
② 昭和初期と思われる千本山保護林の写真。江戸時代にお留め山として伐採が禁止されていたため、当時からヤナセスギの巨木が林立していました。
③ 現在の林内の様子。現在も昭和初期当時とあまり変わらない姿を留めています。



レーザ計測によって現れた千本山保護林(登山口周辺)。丸く見える塊の一つ一つが木の樹冠です。保護林周辺の人工林と比べると樹冠がかなり大きいことが分かります。また、赤色に見える箇所は木の高さが50mを超えるもので、最大樹高64mのヤナセスギが確認されています。また、樹高25m以上の樹木(主にヤナセスギ)が林木遺伝資源保存林内で17,344本確認されています。